

## 第4次支援隊(10名)が被災地へ

3月26日(土)第4次支援隊が現地に向け出発しました。第4次隊は2チームの編成となっています。Aチームは庄内(山形)より現地へ入り6泊7日の支援、Bチームは東京より現地へ入り4泊5日の支援となっています。以下Bチームからの報告です。

現地はすでに危機的な状況から移行しており、トリアージは終了し通常診療に戻っているそうです。それで、塩釜多賀城の避難所回りを午前午後、夜間も出し始めたそうです。それと、避難所についても昼間は地域に出ている人が多いということで、地域訪問を24日から開始しています。坂は救急外来の応援ぐらいみたいです。

会議の最後に、急遽、夜の避難所訪問行動に医師3人、看護師3人、薬剤師2人に行ってもらおうとの指示があり、永江医師がメンバーに選ばれました。沖縄と福岡から医師1人、看護師1人と振られ、永江医師



が自分が行きたいと立候補されました。せっかくなのだからがんばりたいと言われていました。永江医師は訪問者の打ち合わせのあと、多賀城小学校のチームに入り出発しました。すでに訪問に行っているチームに援助ということでした。

それ以外のメンバーは17時30分からの支援者会議で、今日の取り組みの振り返りをしたあと、4人で被災地を少し見たいとのことでタクシーで港あたりまで行き、被災のすごさを目の当たりにしました。



## 支援募金の訴え

県連事務局では毎週火曜日の宣伝行動を東日本大震災の支援募金活動に切り替え訴えを行っています。この間2回の行動で16,835円の募金が寄せられました。

また、今回の震災被害にくわえ原発事故が拍車をかけ、原発の安全神話が大きく崩れたことから、佐賀県の玄海原発の危険性と原子力行政の見直しについても訴えました。

